

- 後期試験までやり切ろう!
- 共通テストチャレンジの見方
- 3年生0学期のスタート(2年)
- キャリアガイダンス(1年)

出たところ勝負の人生は、経験上推奨しません。

国語科 春田和彦

私が子どもの頃はまだ東西冷戦期だったのですが、気がついてみたらベルリンの壁が崩れ、ソ連はなくなってしまいました。世界の枠組みが変わっていくそのダイナミズムに衝撃を受け、高校入学頃には、将来国際政治を学ぶことを決めました。

ところが私の通った高校はSHRも清掃も校歌もなく、修学旅行もない上に文化祭は自由参加というのびやかな学校で、大学受験をする生徒がいないため受験指導をしてくれる先生もいないという状況でした。そんなわけで私は誰にも相談せず勝手に受験することにし、出願先は政治学関連の学部で似たような偏差値帯の大学でまとめ(まずいですね)、4日連続の受験日程など意にも介さず受験に臨みました(まずいです)。案の定ですが結果は芳しくなく、どうにか拾ってくれた大学に行く準備をしていた頃、センター試験(当時)の点数の都合で予定を変更して受けた大学から合格が出ました。受験生活の最後に出た合格が嬉しくて、勢いでその大学に行くことにしました。政治学系の学部ではなかったけれど、キャンパスは都心にあるようだし、明るい未来が開けている気がしたのです。

ところが大学に入ってみるとキャンパスは郊外にあるし、教育学部なのだけどよく考えたら自分は学校好きというわけでもないし、ということで挫けそうにもなりましたが、でもたまたま文学系の授業は性に合ったし、教授たちは優秀な方ばかりで刺激を受けたし、で楽しく過ごせました。さらに教育実習へ行き「教員とは実はやりがいのあるもので、学校とはもっといろいろ可能性のあるところなのでは？」との気づきをえました。以来教員を目指すことになりました。

ところが当時、東京都の中・高国語教員採用枠は「若干名(「1人いるかいらないか」との噂)」で、教員になる目は限りなく低かったのです。周りでも教員の道を諦める人が多く、私も会社に勤めることになりました。とはいえ会社勤めは楽しかったです。特に 企業的な/学校以外の 視点を得られたことは大きかったです。そのまま会社勤めをしていくつもりでいたのですが、あるとき各地で教員採用枠が広がり始めたことを知り一念発起、改めて教員への道を進もうと決意しました。

ところが……(以下割愛)

いま私は幸運にも新宿高校教員として日々を過ごしていますが、この状況はたまたまあるものにすぎず、少し違えばどうなっていたか分かりません。進路変更は人生の常ですが、それにしてもきちんと調査・検討することで憂いの種を減らすことはできました。私の場合は高・大の受験時、また新卒時の教員採用について、調べれば事情が知れたことで(「ところが」のあたりです)、別の確実な手段を取ることもできたはずでした。事前調査は大事です。また当時の私は勢いで何とかしようとしがちでしたが、やはりそれではうまくいかないようです。

皆さんには、進路についてきちんと調べ、丁寧に日々を過ごし、よい状態で受験期を迎えることを期待します。どの口が言ってんだ、という話ですけど。

○後期試験までやり切ろう！

3年生は、私立大学の一般入試はほぼ終わり、合格発表の結果が出た人もいることでしょう。また国公立大学の前期試験も終了しました。そして3月12日からは後期試験が始まります。昨年度は後期試験で16名の合格者が出ています。最後まで諦めずに挑戦しましょう。諦めない心が成功の要諦になります。

*赤本の返却と寄付をお願いします！赤本を借りている人は、忘れずに返却してください。

*後輩のために、赤本の寄付をお願いします。

○共通テストチャレンジの見方

1年生、2年生とも全員共通テストチャレンジを受験しました。結果はそれぞれだったと思いますが、皆さんはまだまだ伸びます。全国平均点と比べて、冷静に自分の得点を受け止めましょう。

振り返りをする際には、現在の自分の知識の抜け漏れを確認し、進級前に復習をしておきましょう。共通テストでは難しい知識ではなく、教科書を本質的に理解しているのかが問われます。基礎基本を大切にしましょう。

これから、何点伸ばせるかが重要です。来年取りたい点数を意識しながら今まで以上に授業、家庭学習を大切に過ごしてほしいと思います。

○2年生は3年0学期のスタート

受験学年としての3年0学期はすでにスタートしています。来年の共通テストまでもう1年ありません。焦る必要はありませんが、「受験はまだ先のことだ」と先送りする余裕もありません。日々の一步一步を大切に積み上げていきましょう。

1、目標を定める

目標を定め、その実現化のための計画を立て、それを日々実行することが大切です。予定通りに進まない時は立ち止まって計画を修正することも必要ですが、それでも構いません。目標実現のための「計画」と「実行」を始めてください。「計画」は「自分との約束」とも言えるでしょう。

2、受験勉強は貴重な経験

受験勉強というと、何か暗くて辛いというイメージが付きまといますが、それは違います。皆さんも学ぶことの楽しさはこれまでに経験しているでしょう。分からないことが分かる喜び、問題が解けた時のスッキリ感！大学受験のように勉強に没頭できる機会は、人生にそうはありません。楽しみながら、思いっきり勉強して今後の人生につなげていきましょう。

3、バランスのとれた力を

受験勉強という特別な勉強があるわけではありません。受験では高等学校の授業で学ぶすべてのことが試されます。教科や科目という仕切りはありますが、例えば「現代文」や「英語の長文読解」の入試問題にはあらゆる教科・科目の内容が取り上げられています。また、学力だけでは不十分です。まる2日間に亘る共通テストでは体力と集中力がないと話になりません。体育や部活動で鍛えた体力と精神力が役立ちます。

○キャリアガイダンス

2月12日(水)の6・7限に、1年生対象のキャリアガイダンスを実施しました。その目的は、社会においてそれぞれの立場で活躍されている先輩方の貴重な体験談を伺い、生徒ひとりひとりが自分の将来の夢や進学へのイメージをより確かなものとし、これからのあり方について考えていくきっかけとするもので、例年実施している行事です。今年度も同窓会の全面的なご協力を得て、様々な分野で活躍されている諸先輩方12名をお招きし、様々な演題でお話をさせていただきました。このような機会に後輩のために積極的に協力くださる「繋がり」も、新宿高校の強みです。79回生が、将来は講師として後輩達と向き合うことを期待しています。

当日は6限と7限にそれぞれ異なった講座を受講しました。各会場では、熱心にメモを取ったり、積極的に質問をしたりする姿が見られました。今後の自分の進路に思いを馳せることに止まらず、今の自分の生活が将来へと繋がっていくのだということを実感する機会となってくれば嬉しいです。

今年度の講師を務めてくださった先輩方と演題をご紹介します。

- | | | |
|--------|------------|---|
| 馬場 悠男 | 先輩 (15 回生) | 『博物館の人類学研究者という生き方 鈍才でも、それなりの努力と幸運で、何とかなる』 |
| 植田 益朗 | 先輩 (26 回生) | 『アニメーションの未来と自分』 |
| 石川 裕 | 先輩 (30 回生) | 『研究者として教育者として』 |
| 中越 一統 | 先輩 (31 回生) | 『公認会計士の業務と魅力』 |
| 入澤 武久 | 先輩 (36 回生) | 『合格しやすくなった司法試験～合格したあとに広がる世界』 |
| 金子 博行 | 先輩 (42 回生) | 『医師の理想と現実』 |
| 神余 崇子 | 先輩 (43 回生) | 『大学の勉強と職業としての大学教員』 |
| 原田 将史 | 先輩 (48 回生) | 『寝ても覚めても建築』 |
| 庄司 匡宏 | 先輩 (50 回生) | 『世界の貧困と闘う仕事』 |
| 椿本 弥生 | 先輩 (50 回生) | 『赤点高校生から教育工学研究者へ 一迷ったらおもしろそうな方を選ぶ』 |
| 小出 アキラ | 先輩 (57 回生) | 『プロのアナウンサー直伝!! 会話術&将来への道筋』 |
| 大坪 桃 | 先輩 (66 回生) | 『理系の進路と化粧品研究者のしごと』 |

先輩からの言葉

人との出会いを大切に 努力し挑戦を ～自分のために 人のために～

敬愛大学 教育学部

35 回生 佐藤 孔美

「先生、蛇を捕まえました～！」1年生の子供たちと、「夏見つけ」に行った日のことである。私は蛇が大の苦手。子供たちを置き去りにして、その場から急いで逃げ遠目に子供たちを見ていた。最初は意気揚々としていたkくんは、友達から「へびがかわいそうだから、逃がせ！逃がせ！」とはやし立てられ、やむなく蛇を逃がした。そして泣きながら教室に戻った。蛇を飼いたかったのである。教室に戻ってもずっとしょんぼりして悲しそうな顔をしていたkくんが、給食の準備を始める頃、私のところにやってきて満面の笑みで、「先生、蛇から手紙をもらいました。」と見せてくれた。その手紙には「にがしてくれてありがとう。へびより」と書かれていた。kくんが元気になったことも嬉しかったが、もっと嬉しかったのは、悲しんでいるkくんを見て誰かがkくんを励まそうとしてとったこの行動。「1年生なのに、こんな気の利いたことができるのか・・・」。教師になって良かったと心から思えた瞬間であるとともに、私の体は、感動に包まれた。

教師の仕事内容の激務だけがクローズアップされて、教師を目指す若者の減少が社会問題になっているが、日に一つだけでも心がほっこりすることがあれば、よしまた明日も頑張ろうという気持ちになれた。また、子供たちの前向きでひたむきな姿に励まされながら教師としてのやりがいを感じ、31年もの長い間、小学校教師としての仕事が続けてこられたと考えている

現在の私は、大学の教育学部で将来教師になろうとしている学生たちと日々過ごしている。大学では、初等社会科教育、生活科教育や子供理解についての講座を担当している。自分がまさか大学の教師になるとは、小学校の教師に成り立ての頃は夢にも思っていなかった。では、どのようにしてその道が開かれたのかを振り返ってみると、やはり、様々な人との出会いが大きい。教育実習でお世話になった指導教官の先生、初任で配属された小学校で社会科をみっちり教えてくださった先輩教師の方々、2校目の小学校に異動した時に、もっと社会科教育を勉強したいと思い飛び込んだ社会科研究会の先生方との出会いが、今の私を育ててくれたと考えている。長い月日が経過したがこの方々とは、現在もなお付き合いが続いている。人との関わりを大事にすることが、人生には大切であるといえるのである。

私は国立の附属小学校に異動してから、50歳で大学院へ進むことを決意した。その時の決断が私の人生を大きく転換することに繋がった。大学院から再び小学校の現場に戻った5年後に、現在の大学に着任し、今まで私が積み重ねてきた実践や理論について学生に講義をし、様々なことについて考えさせる機会を設けている。本大学に在学する教育学部の学生には、途中から一般企業を希望する学生も見受けられる。教師になる学生も含めて社会人になる学生には、あたりまえのことがあたりまえにできるようになって欲しい。「おはようございます。お疲れ様です。失礼いたします。ありがとうございます」等の挨拶、「自分にできることは、何かありませんか」「そのお仕事お手伝い致しましょうか」「決められた時刻・提出物等の厳守」「人のことを先に、自分のことはあとに」といった相手への気配り・心遣いなどである。

吉野源三郎さんの著書に、「たれもかれもが力いっぱいこのびのびと生きてゆける世の中 たれもかれも『生まれて来てよかった』と思えるような世の中 じぶんを大切にすることが同時にひとを大切にすることになる世の中 そういう世の中を来させる仕事がきみたちの行くてにまっている 大きな大きな仕事 生きがいのある仕事」という詩が書かれている。学生たちが自ら選んだそれぞれの仕事に就き、自分を大切にして、努力し挑戦し続けてくれることを常に願っている。私の後輩である新宿高校の皆さんにもそう願って、筆を置かせて頂きたい。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

※今後の予定 (進路関係)

- | | |
|-------|---------------------------------------|
| 3月6日～ | 国公立大学前期試験の合格発表 |
| 7・10日 | 実力テスト (1年生は学びみらいPASS、2年生は全統共通テスト高2模試) |
| 12日～ | 国公立大学後期試験 |
| 19日 | 合格速報会 |
| 25日 | 修了式・離任式 |